

支 援 事 業
報 告 集



愛芸アシスト基金

2014
年度

平成26年度 愛芸アシスト 支援事業日程表



ご賛同いただいた皆様へ

日頃は、温かなご支援をいただき、また、演奏会・展覧会などにもいつもお運びいただきありがとうございます。

愛知県立芸術大学を支援する会(愛芸アシスト)は平成20年に発足されました。以降、本学が地域における芸術文化創造活動の拠点として多くの方々に親しまれ、また理解を深めていただく一助となる一方、学生や教員が意欲的で創意あふれる活動を推進することへの支援に成果をあげることが出来ました。ひとえに皆様のおかげと心より感謝申し上げます。

さて、愛芸アシストは平成26年12月19日に開催された総会において、その運営主体を見直し、今後は愛知県立芸術大学の一事業となることが決定されました。本年1月より、皆様から頂戴しているご支援は、新しい仕組みの中での「愛芸アシスト基金」への寄附として取扱い、これまでの活動を更に充実・継承していく所存です。

愛知芸大は平成28年度に創立50周年を迎えます。半世紀前の初心、情熱を忘れず、ますます重要となる芸術教育・創造活動の発展を期して、これまでの活動の集大成として創立50周年記念事業「直指天 芸術は森からはじまる」を計画しております。愛芸アシスト基金と合わせご支援の程、よろしく願い申し上げます。

皆様からいただいたご支援をより有効に使うため、皆様のご意見、ご要望などをぜひ賜りたいと考えております。大学並びに、サテライトギャラリーの愛芸アシスト基金事務局にお寄せいただけますと幸いです。

愛知県立芸術大学 学長 松村公嗣

01 オペラ公演「サンドリヨン」

平成26年12月6日(土)、7日(日)、13日(土)
長久手市文化の家、パティオ池鯉鮒

02 愛・知・芸術のもりから

平成26年4月～平成27年3月(毎月1回開催)
SMBCパーク栄

03 愛知県立芸術大学サテライトギャラリーでの展覧会支援

平成26年4月～平成27年3月(展覧会開催回数20回)
愛知県立芸術大学サテライトギャラリー

04 芸術資料館収蔵品展「私のお気に入り -My Favorite Things-」

平成26年4月22日(火)～5月14日(水)
愛知県立芸術大学芸術資料館

05 学生への公募

12件(美術学部・美術研究科5件、音楽学部・音楽研究科7件)

06 卒業・修了生のキャリア支援

平成27年2月28日(土)
愛知県立芸術大学サテライトギャラリー

07 芸術祭での講演会

平成26年11月1日(土)
愛知県立芸術大学新講義棟

08 干支展

平成26年11月15日(土)～11月24日(月・祝) ...11月14日(金) 愛芸アシスト会員向け内覧会・懇親会を開催
愛知県立芸術大学サテライトギャラリー

01 オペラ公演「サンドリヨン」



平成26年度のオペラ公演として、童話としてあまりにも有名なJ.マスネ作曲「サンドリヨン(シンデレラ)」をお届けいたしました。長久手市文化の家での2公演に加え、知立市文化会館(パティオ池鯉鮒)での1公演の合計3公演(初めての試みとして、知立市文化会館では地元小学生へのゲネプロ公開も行いました)を皆様のおかげで成功裏に終える事が出来ました。特に、今回はトヨタ自動車様の協賛によりお借りしたウイングレットを利用した演出と山本富章教授の作品による壮大な舞台美術は大好評でした。

平成27年度は、いよいよモーツァルトの人気作品「コジ・ファン・トゥッテ」を取り上げます。ご期待下さい。

完売になり入手が困難になる場合もあるチケットも愛芸アシスト基金の寄附者の方々にはご準備させていただきます。

末吉利行(音楽学部)

※()内の執筆者所属は平成26年度末時点

02 愛・知・芸術のもりから

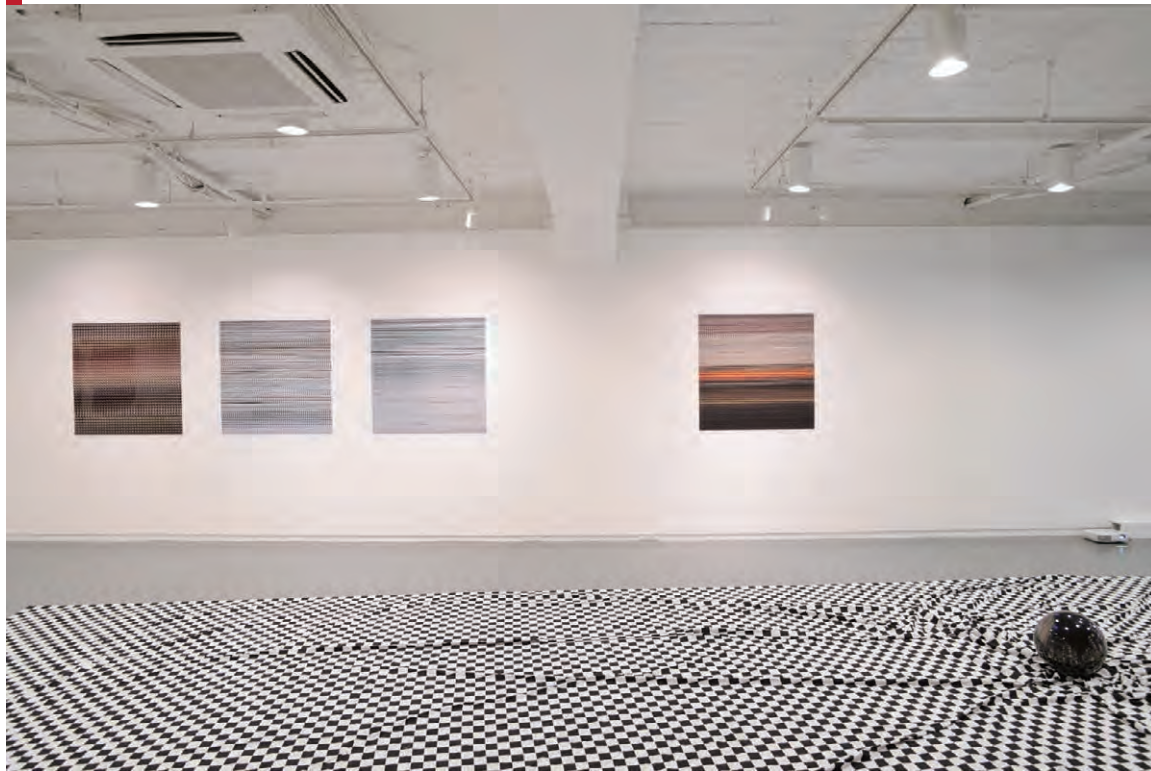


「愛・知・芸術のもりから」は愛芸アシストのバックアップのもとで、平成26年度で5年目を迎えることができました。栄サテライトギャラリーでの展示会が本学にとっての美術の発信であるなら、「愛・知・芸術のもりから」コンサートは、名古屋市内一等地に位置するSMBCパーク栄での優秀な本学卒業生・修了生たちによる音楽の発信です。この企画は、卒業・修了後も地道にキャリアを積み上げていく若い才能に大きな励みを与えていただいています。同時に、愛芸アシストの支援者の方々には、幅広いジャンルの質の高い演奏をお楽しみいただいております。今後とも皆様の温かいご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

二瓶浩明(音楽学部・学部長)



03 愛知県立芸術大学サテライトギャラリーでの展覧会支援



「地域に開かれた大学」を標榜する本学は、絶好の立地条件の展示会場である米サテライトギャラリーを好条件で賃借することが出来ており、多くの方々への発信の場所とさせていただいております。平成26年度は、600人近いの方々にお越しいただいた新春特別企画「松村公嗣 文藝春秋 表紙絵展 -2014年 12ヶ月-」を始めとする20件の展覧会を、200日を超える日数で企画させていただき、4,000名を超える方々に鑑賞していただきました。

愛芸アシストのご支援を得て、本年度も無事にサテライトギャラリーでの展覧会の運営・管理を行うことができました。心より感謝申し上げます。

平成27年度も素晴らしい企画を準備しておりますので、美術愛好家の方々のみならず、音楽ファンの方々にも、是非、足をお運び頂きたいと存じております。

寺内曜子 (美術学部・芸術資料館長)

04 芸術資料館収蔵品展「私のお気に入り -My Favorite Things-」



本学の芸術資料館収蔵品展の開催は、例年、愛芸アシストのご支援のもと、支援者の方々や地域の方々に大学へ足を運んでいただき、本学の収蔵資料・作品を知っていただく絶好の機会になっています。

平成26年度は、本学教員によるセレクト展を開催しました。本学教員が教育現場に従事する教育者の立場として、さらに芸術家の視点として、1,400点以上にのぼる収蔵資料の中から選出しました。

合わせて関連イベントとして、本学教員によるトーク&レクチャー「日本画“大作”に挑む」、ギャラリートーク「藤田嗣治—下地の魅力—」、トーク&ライブ「My Favorite Things」も開催し、多くの入場者にお楽しみいただきました。

寺内曜子 (美術学部・芸術資料館長)



05 学生への公募



井村玲美 / 井村玲美展



吉田達彦 / 吉田達彦展「夢の中」



川角岳大 / 愛知県立芸術大学油画専攻4年研究発表前研究発表展



武藤綺音 / 音楽 × 文学 × 美術
「待つ」にまつわる待ち合わせ



波多和馬 / Ensemble Celliberta 8th Concert



芳賀傑 / 新作初演合同コンサート オークストラプロジェクト

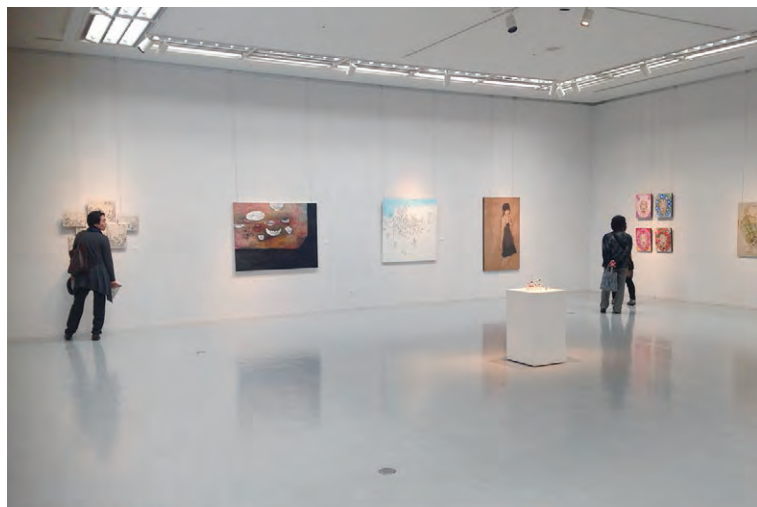


松原瑠美菜 / 12人の女学生からあなたへ～音楽の贈り物～





玉井伸弥 / 第三回 脈動展



今井彩乃 / ばるけ選抜展



百瀬愛莉 / 聖夜に送る音の花綵(はなづな)

事業名：井村玲美展

報告者：井村玲美(美術学部 油画専攻3年)

今回の展示は、私にとって2度目の個展となりました。昨年10月に初めてギャラリー彩で個展をさせていただき、観に来てくださった方々から様々なご意見を頂けて、「3年生のうちにもう一度個展が開きたい。もっと良い展示がしたい。」という思いから、今回の個展を開催しました。油彩画の大作を完成させることができ、前回よりもより密度のある展示になりました。

今年度より私は4年生になりますが、7月に資料館でプレ卒展、そして翌年3月には愛知芸術文化センターにて卒業制作展があります。この2つの行事は、大学生生活4年間の成果を見せる、私にとって大変大きな存在です。卒業制作展で、十分自分の思いを発揮することができるように、もっと作品を創り、外部に発表する力を身に着けなければいけません。

自分が本当に表現したいことは何か、どうしたら良い展示空間を作り出すことができるのだろうか。今回の展示では、自分の作品・展示のしかたについて、じっくり考え、見つめなおすことができ、とても意義のあるものとなりました。また、多くの方に来場していただき、沢山のアドバイス・感想をもらうことができ、大変参考になりました。特に今回は、ギャラリー彩さんが様々な美術関係者の方にDMを送ってくださり、多くのご縁をつくることができました。また、お忙しい中、足を運んでいただき、丁寧にご指導してくださった教授の方々には、心より感謝申し上げます。

今回の展示で得たものを糧にし、今後より良い作品をつくり、卒業制作展を盛り上げていく為、残りの1年間全力を尽くします。

事業名：吉田達彦展「夢の中」

報告者：吉田達彦(美術研究科 博士前期課程 彫刻領域2年)

一つの展示室を自分一人で自由に使う経験は一週間という短い展示期間ですが多くの展示方法を考えるいい機会となりました。

個展に来たギャラリスト、友人、学芸員、指導教官から頂いた感想を基に展示替えを頻繁に行いました。作品の配置を替えることで展示室内の大きさや形を把握することが出来ました。最終的には展示室に合った展示を見つけ出すことが出来たと思います。

個展は無事好評に終わり、来年の八月に計画中の市民ギャラリー矢田主催の企画展に招待されることになりました。

この創作から発表までの活動は私自身に多くのことを学ばせてくれました。

事業名：愛知県立芸術大学油画専攻4年研究発表前研究発表展

報告者：川角岳大(美術学部 油画専攻4年)

今回の展示は、展示名の通り7月に行われる学内展示の研究発表展を前にして、有志を募り自主的に研究発表を行う事を目的として企画されました。

各自の研究テーマを深める上で、これまで制作してきたものを人に見てもらえる環境におくことも重要なプロセスであると考えています。しかし、クラス単位での展示ということもあり、テーマ性の異なる者と展示空間をつくること自体が難しいことでした。その相違点を改めて共有し、ひとつの展示をつくるということは、各自の経験値を上げてくれていると思います。

それらの経験を生かし、次の研究発表展、卒業制作展、さらにはその先にある今後の活動へつなげていけるものにしていきたいと思っています。

事業名：Ensemble Celliberta 8th Concert

報告者：波多和馬(音楽研究科 博士前期課程 弦楽器領域1年)

Ensemble Celliberta(アンサンブル・セリベルタ)は、チェロ専攻の学生が主催として毎年開催しているチェロ・アンサンブルのコンサートです。皆様の温かいご支援により、今回第8回目の定期演奏会を迎えることが出来ましたこと、心より御礼申し上げます。

本公演では第1部にて三重奏～八重奏によるアンサンブル、第2部では本学作曲専攻生による12人のチェロ・アンサンブルのための新曲と、弦楽合奏のレパートリーとしてもよく知られているグリーグのホルベルク組曲(チェロ十二重奏)を取り上げました。

コンサート当日は多くのお客様に足をお運びいただき、ご好評いただくことができました。今後ともチェロ・アンサンブルの可能性を追求していく機会とし、精進して参りたいと思います。

事業名：新作初演合同コンサート オーケストラプロジェクト

報告者：芳賀傑(音楽学部 作曲専攻4年)

このオーケストラ・プロジェクトは名古屋大学交響楽団と愛知県立芸術大学音楽学部の有志が集まった学生が1つの合同オーケストラを構成し、音楽を通じて大学間交流を図る、という企画でした。両大学を通じて60人程の学生(OG・OB含む)が参加し、一つコンサートを作るという名目の元に、互いに様々な面において影響を与え合う事ができたのではないかと自負しています。

今回のコンサートは演奏家だけでなく、愛知県立芸術大学の作曲専攻に関わる若手の作曲家の作品を通じて多面的に音楽と関わる事をコンセプトにしてきました。また、作曲科教授の小林聡氏や、プロで活躍されている指揮者野津如弘氏のご協力もあり、学生が本物の音楽に触れる機会を設けられたのも今回の成功に大きく関わっていたのではないかと感じております。

全プログラムが世界初演という意欲的ではあるけれども、非常に負担の大きい企画ではありましたが、学生ならではのエネルギーによってそれを乗り越えて演奏会を成功に導く事ができたのは本当に驚きでした。

名古屋大学と愛知県立芸術大学は近年大学間交流を重要視し、相互に提携を強くしようという傾向がみられ、その流れの架け橋として今回の企画が助力できたら、と思っておりました。今回、この非常に意欲的な演奏会を名古屋大学豊田講堂で開催する事ができた事で、今後の大学間交流のより一層の振興のきっかけになり、また、大学から発信する愛知の芸術文化の発展への一石を投じられたのではないのでしょうか。



事業名：12人の女学生からあなたへ ～音楽の贈り物～

報告者：松原瑠芙菜（音楽学部 器楽専攻 ピアノコース3年）

「12人の女学生からあなたへ ～音楽の贈り物～」は、高校～現在までの約6年間を同じ環境で過ごしてきた愛知県立芸術大学音楽学部生12人による、自主企画コンサートです。“お客様の心に、そっとやさしく寄り添うような音楽をお届けしたい”“私たちの音楽により、贈り物を受け取ったときのようなどこか特別な、あたたかな気持ちになってほしい”—このような想いを胸に、テーマを「音楽の贈り物」とし企画しました。はじめての自主企画コンサートということもあり、手探りではありませんが、愛芸アシストをはじめ様々な方のご協力をいただきつつ、メンバー全員で0から準備し、当日は沢山の方にご来場いただくことが出来ました。反省もありますが、大事な仲間とひとつの演奏会をきちんと作り上げることが出来たことは、学生生活の素晴らしい思い出のひとつとなり、同時に、未来へ繋がる貴重な経験となりました。また、沢山悩み考えて作り上げた演奏会だからこそ、結果お客様に楽しんでいただけたこと、そして何よりその笑顔が嬉しく、音楽の偉大さ、素晴らしさをあらためて感じるとともに、もっと喜んでいただくためにこれからも精進していこうという刺激にもなりました。この演奏会を開催できたことを、非常に幸せに思っています。

女学生コンサートは、今後も続けていくつもりです。第2回は、2016年2月7日に予定しております。来るその日まで、メンバーひとりひとり、また日々成長していければと思います。今回のこの経験を最大限に活かし、より質の高い「贈り物」をお客様にお届けしたいです。皆様是非足をお運びください。

※このページは、愛知県の学生・教職員・保護者の方へ向けての告知ページです。お問い合わせは、お問い合わせ先へお願いします。

事業名：音楽×文学×美術「待つ」にまつわる待ち合わせ

報告者：武藤綺音（音楽研究科 博士前期課程 作曲領域1年）

平成27年3月31日、愛知県芸術劇場小ホールにて、『音楽×文学×美術「待つ」にまつわる待ち合わせ』と題したコンサートを行いました。

この演奏会は、サミュエル・ベケットの戯曲『ゴドーを待ちながら』に触発され、音楽学と作曲の学生が主体となって企画したものです。各地の街を舞台にした4つのオリジナルテキストを主軸に据え、4人の作曲者が書き下ろした室内楽曲と、デザイン専攻の学生による映像表現を重ね合わせました。

指揮・演奏・朗読を、それぞれ作曲専攻・器楽専攻・デザイン専攻の在校生および卒業生らが担い、総勢18名のメンバーが個性を發揮しつつ、一丸となって世界観を形作ろうと取り組みました。

今回のような複合表現を志した演奏会は、学生の自主企画としてはあまり例のないものであり、いささか挑戦的な面もありましたが、終演後お客様からは、「面白い試みだった」「短篇映画を観ているような楽しさがあった」などのご感想を多くいただくことができました。得られた経験を糧に、各々表現に磨きをかけていく所存です。

当演奏会にご来場くださった皆様、またご協力いただいた皆様に、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

※このページは、愛知県の学生・教職員・保護者の方へ向けての告知ページです。お問い合わせは、お問い合わせ先へお願いします。

事業名：第三回 脈動展

報告者：玉井伸弥（美術学部 日本画専攻3年）

この展覧会は日本画、デザイン、彫刻を専攻する学生4名による“いきもの”をテーマにしたグループ展の3回目になります。学外で第三者に作品を見てもらうことを通して、互いに作家としての意識や技術を高め合えるような発表の場を設けようという想いから立ち上げました。多くの方に足を運んでいただき、実際に会場でその様子を拝見したりお話をさせていただく中で、この展覧会やメンバー自身のこの先の課題や可能性について改めて気づき考えさせられる良いきっかけとなりました。

これからもこの展覧会を継続して、より良い作品を生み出していけるよう努めていきたいと思います。この度は愛芸アシスト助成によりこの展覧会を開催することができ大変感謝しております。ありがとうございました。

※このページは、愛知県の学生・教職員・保護者の方へ向けての告知ページです。お問い合わせは、お問い合わせ先へお願いします。

事業名：ばるけ選抜展

報告者：今井彩乃（美術学部 日本画専攻2年・芸術祭実行委員）

11月26日から30日の5日間、名古屋市民ギャラリー一矢田にて、愛知県立芸術大学芸術祭内で行われる学内公募展ばるけの上位入賞者による学外展示を行いました。

この企画は、年々減少しつつある学内公募展への出品者を増やすため、又、出品作品の質の向上を目的として企画しました。

期間中、約100名の方にご来場いただき、出品者と作品や活動について対話している様子も見られました。出品者にとっても学内で展示をするのとは違う刺激が得られたのではないかと思います。

学外展示は金銭面でも簡単にできるものではないため、学校祭の企画としてこのような機会を設けることができたのは出品者にとっても企画者にとっても意味があったと思います。

この経験を今後の制作にも生かしていけたら良いと思います。

事業名：Flute Potpourri（フルート・ポプリ）

報告者：細川杏子（音楽学部 器楽専攻 管打楽器コース3年）

平成26年12月18日、名東文化小劇場にてフルート専攻生による自主企画演奏会“フルートポプリ”を行いました。

この公演は日頃の成果発表会という位置づけではなく、お客様にフルートアンサンブルの魅力を味わっていただくと同時に、学生たちの演奏技術の向上やアンサンブル能力の向上を目指して行いました。それ以外にも、学生たちにとって普段関わる機会のない運営や企画を学生たち自身で行うことによって、将来一人の演奏家として活動する際に不可欠な知識、経験を得ることも一つの目標でした。

この公演のためにフルート科の先生をはじめ、改定初演楽曲を書いてくださった作曲の先生にも何度もレッスンをしていただき日頃のレッスンでは勉強できない多くのことを学ぶことができました。

チラシデザイン等のために美術科の学生と相談をしたり、ホールの方との会議で一つの公演を行うのにどんなことが必要なのかを知り、改めて多くの方のご協力があって公演をすることができるのだと実感しました。

当日は天候の悪い中多くのお客様にご来場いただき、多くのお客様と素敵な時間を共有することができました。

この公演から学んだたくさんのことを糧に、これからも精進していきたいと思います。

※このページは、愛知県の学生・教職員・保護者の方へ向けての告知ページです。お問い合わせは、お問い合わせ先へお願いします。

事業名：打のとき

報告者：深堀賢太郎（音楽学部 器楽専攻 管打楽器コース4年）

愛知県立芸術大学器楽専攻生による第14回定期演奏会「打のとき」は平成27年2月27日金曜日19時より、長久手市文化の家森のホールにて開催されました。毎年、愛知県立芸大にて打楽器演奏を専門的に学ぶ学生により、この時期に開催しております。また、管打楽器コース深町浩司准教授を監修に、神谷百子非常勤講師を指導に迎えています。なお今年のメンバーは、大学院2年から学部1年までの11名でありました。演奏会当日は大きな問題もなく進行し、盛況のうち終演致しました。アンコールの後には2度のカーテンコールを求められるなど、会場も温かい雰囲気になりました。集客は320名でした。例年300人を超える観客を動員しておりますが、今年は出演メンバーが少なく、事前には集客数に心配が見込まれました。しかしながら、結果的にはほぼ例年通りの集客を記録することが出来、この点からも演奏会の成功を感じております。

演奏会にあたっては、多くの後援・協賛の手助けを得、様々な方の力添えがございました。その中でもチラシ・プログラム製作は、本学美術学部デザイン科の学生2人に依頼しました。これは高質なチラシ・プログラムの完成を期待しただけでなく、学部を越えた学生同士の繋がりを産みだすことになり、我々にとって大変有益なものになったと感じています。また演奏会の司会進行も声楽科学生に依頼、演奏会に関わる舞台スタッフ等も本学学生に依頼し、学生主体で創り上げる演奏会であることを重要視しました。

今年で14回を数える当演奏会、年々固定客も増えてきております。これはアンケートの集計結果から分かったことでありますが、長久手の恒例イベントとして毎年足を運んでくださるお客様も少しずつ増えてきているようです。私たちは今後も伝統あるこの演奏会を、地域に根差した行事として益々活発化すべく、一層力を入れて取り組んで行く所存でございます。

今回、こうして愛芸アシストの支援を受けられたことは、私たちメンバーにとって大変嬉しいことでした。今まで学生の自主公演として少ない予算のもと試行錯誤して参りましたが、少しずつ大学・地域の認識を得られてきていると感じております。今後も毎年演奏会を重ねて行くに当り、本学に関わる恒例のイベントとして、同様にご支援賜りたいと希望を持っております。今後も、どうか変わらぬご支援をお願い申し上げます。以上を事業報告と致します。

※このページは、愛知県の学生・教職員・保護者の方へ向けての告知ページです。お問い合わせは、お問い合わせ先へお願いします。

事業名：聖夜に送る音の花綵（はなづな）

報告者：百瀬愛莉（音楽学部 器楽専攻 弦楽器コース4年）

12月24日 クリスマスイブ、菊里高等学校音楽科 第61期生の9名で、コンサート「聖夜に贈る音の花綵」を開催致しました。

切磋琢磨しながら皆で音楽に没頭した高校生活から4年、学生生活最後の年にみんなで演奏会をしたいね、という声から始まった、私たちにとって初めての自主企画の演奏会でした。

コンサートの企画、運営などに関わること自体が初めての出演者がほとんどで、不慣れな点が多く、当日を迎えるまで不安もありましたが、沢山の方に御支援、御協力を賜り、無事に演奏会を開催することができました。

私たちは同級生の演奏にとても刺激を受け、またお客様には「色々な楽器の音楽が聴けて楽しかった。」「ソロだけでなくアンサンブルもあって面白かった。」との声をいただきました。

出演者一同、お客様と素敵な時間を共有できたのではないかと嬉しく思います。

まだまだ成長段階の私たちですが、今後も菊里高等学校音楽科 第61期生の皆と共に演奏会を開催していきたいと考えています。

助成をくださった愛芸アシスト様へは、出演者一同より感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。



06 卒業・修了生のキャリア支援



平成27年2月28日、昨年に引き続き第二回目の「美術学部卒業・修了生と美術関係者による交流親睦会」をサテライトギャラリーにて、昨年を上回る合計100名の方々にご参加のもと開催させていただきました。学生の作品に興味がある方、一度作者と話がしたいという美術関係の方々などが、学生と接することのできる機会となり、大いに盛り上がった有意義な企画でした。

一方、学生は、今までは大学という、云わば「傘」の下で研究・思索・創造活動をしてきたわけですが、卒業・修了後は、自分自身で表現者としての道を切り拓いていくことになります。学生にとっては、学外の美術関係者の方々に大いに自己PRをする機会であり、同時に、自らの作品に関心をもっていただけの方々と出会い、作家生活を続けていく端緒になるとともに、わずかも自信をもつことのできる機会になりました。

山本富章 (美術学部)

07 「芸術祭」での講演会



愛芸アシストは、芸術祭実行委員会とタイアップして、内外で活躍されているアーティストによる講演会の開催を、毎年、支援してまいりました。今では、学生が多いなる刺激を受けることが出来る、芸術祭に欠かすことの出来ないイベントとして定着しています。

今後も、芸術家を目指す若者たちへ新たな問題提起をしていきたいと考えています。

愛芸アシスト基金事務局





愛芸アシスト基金



	テーマ	出展数	販売数	入場者	開催期間
平成22年	兔	54	30	213	12月3日～11日
平成23年	辰	64	38	238	11月17日～27日
平成24年	巳	102	48	175	11月3日～11日
平成25年	午	71	44	206	11月16日～24日
平成26年	未	58	39	159	11月15日～24日

平成27年度 愛芸アシスト基金 支援事業案

01 オペラ公演「コジ・ファン・トゥッテ」

平成27年12月5日(土)、6日(日)に長久手市文化の家にて、12月12日(土)知立市文化会館(パティオ池鯉鮒)にて、モーツァルト作曲「コジ・ファン・トゥッテ」を公演します。

総合芸術大学である本学の力を結集した一大イベントにご期待ください。

02 愛・知・芸術のもりから

SMBCパーク栄にて、本学のOB・OGによる演奏会を開催します。

名古屋市の中心、栄の現代的建物で行われる演奏会は、若い熱気と活気に満ち溢れています。

03 愛知県立芸術大学サテライトギャラリーでの展覧会

栄の愛知県立芸術大学サテライトギャラリーにて開催される本学主催の展覧会です。

毎年3,000人を超える方々に来場していただいておりますが、皆様のご支援をいただき無事に運営を続けています。

04 学生への公募

本学学生の小規模の演奏会や展覧会などを対象に、学生から上げられてきた対外的な企画を審議し妥当と認められたものには、一部の活動資金を支援しています。

年々、意欲的な企画が寄せられるようになっていきます。

05 「芸術祭」での講演会

平成27年10月30日(金)から11月1日(日)に本学で開催される「芸術祭」に、芸術祭実行委員会と連携をとり、招聘の要請があった講演者に来学していただきます。

「学内にいながら、“学外”の声を聴く格好の機会」と学生からも好評を得ています。

